

# すっかんほ。

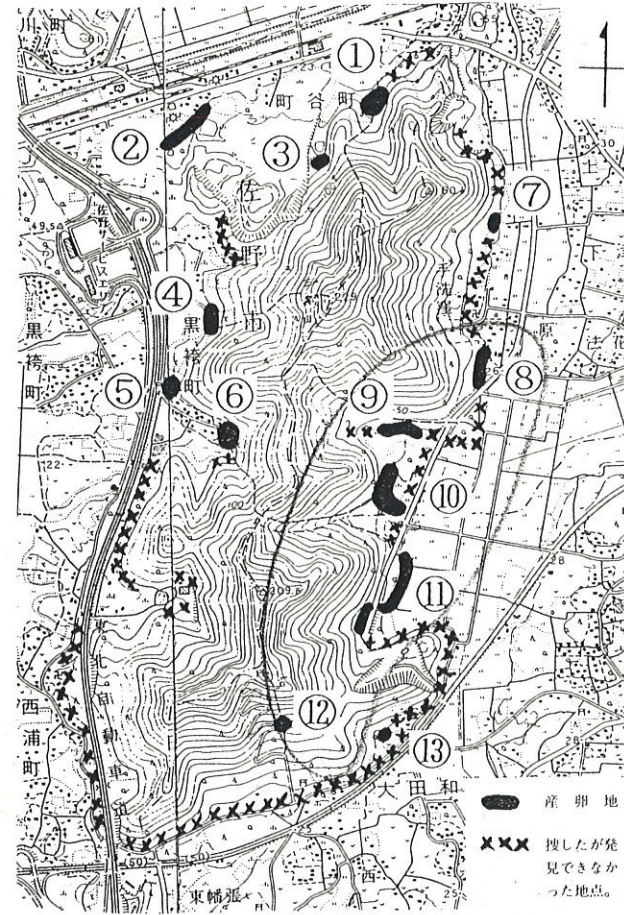
☆ 研究室だより No.20

1994年 3月号

## 変わりゆく 三毛山

「はい、これ」 近所の小学生の女の子が、たんぽぽの花をさしだした。「あ、どうも…」 何げないできごとだが、たんぽぽの黄色が、やけに新鮮に見えた。季節はすでに春なんだと、その時、突然気がついた。

3月下旬、三毛山は、カタクリの花を見にくる人達で、にわかに活気がいてくる。桜が一足早いカタクリの花で春を実感する人も多いことだろう。しかし、三毛山にはカタクリよりも1ヶ月以上前に春を告げる使者がいるのだ。二月の声を聞き、雨が降り、たると、冬眠中のトウキョウサンショウウオが産卵のために、池や水路に集まってくる。そして、青い蛍光を発するバチナ状の卵塊を産みつけるのだ。トウキョウサンショウウオは、関東地方にしか生息しておらず、その中でも、三毛山は、かなり大きな生息地なのである。1989年3月31日から4月の2日にかけて、佐高生物部は、三毛山における産卵地を調査した。



その結果、三毛山全体で、424村の卵塊が見え、中でも⑧～⑫の地点に全体の75%が集中していることがわかった。西側は、高速道路による山すそ削り取られてしまったので、産卵できる場所は、少ない。山の東側は、サンショウウオに残された、楽園なのである。

ところで、三毛山は、今急激に変わりつつある。それとともに、産卵地は、激減している。

まず⑧の産卵地は、水路をコンクリートにしたため、完全に失われた。⑨には、県の花センターが建設されている。⑩は、やがて関連施設で整地される予定と聞いている。⑫は、遊歩道を造るためにうめたてられ、今やほとんど見る影もない。また、花センターと50号バイパスをつなぐ道路が開通した影響もかなりあるだろう。

三毛山で最初にトウキョウサンショウウオの卵塊を見つけたから、すでに8年が経過した。

しかし、三毛山自体が、こんなにも急激に変貌するとは、夢にも思わなかった。私たちにできることは、いったい何なのだろうか。

※ 建設中。とぎ花センターと産卵地の間に水路

